

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2872000845		
法人名	医療法人社団 弘成会		
事業所名	ライフ明海グループホーム		
所在地	兵庫県明石市藤江205 - 3 (電話) 078 - 925 - 2005		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年7月2日	評価確定日	平成21年7月23日

【情報提供票より】(平成21年 6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人、非常勤 2 人、常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨被覆	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 1,200 円	その他の経費(月額)	約45,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,700 円		

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	8	要介護2	0		
要介護3	1	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2			
年齢	平均 89.1 歳	最低	84 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明海病院 ・ めいかい歯科
---------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の玄関を数メートル出ると、目の前には瀬戸内海が広がり、東には明石大橋も望め、散歩道や公園も整備され、きれいで心を落ち着かせる景色がある。建物は運営法人の病院や老人保健施設がある敷地内の一区画に在り、海辺に面し、白を基調として明るく、こじんまりとしている。また、事業所の北側の窓越しには、隣接する小学校の緑あふれる野菜畑が見え、こども達の元気な声や楽器の演奏の音も聞こえて、命のエネルギーが伝わって来ているようだった。建物の内部には、広いデイルームがあり、多目的な催しや作業に使用されている。利用者は経験豊富な職員の支援を受け、穏やかに「普通の生活」を送っていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	昨年までの評価から「改善計画シート」を作成し、避難訓練、毎日の昼食調理の導入を具体的な改善として取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	今回の自己評価は、期間が短く職員の意見が聞けていなかった。評価は管理者・職員の協力のもとに、事業所全体の課題として捉え、運営者の理解の下に、サービスのさらなる質の向上にむけて、今後も活用していただきたい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	会議のメンバーが各種ボランティアグループの代表と各地域の民生委員等の役員を兼ねていて、認知症についての相談や対応、また、その地域でのライフ明海の評判等について話し合われている。また、事業所から地域への情報発信やボランティアの調整もできて、サービスの向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	事業所運営に対しては家族は消極的で、面会時には意見の聞き取りを行うが、意見は聞き取れていない。また、家族には家族同士で思いを表せる交流会等の機会がない。認知症高齢者の共同生活では、家族の理解と協力が必要であり、利用者の「普通の生活」の達成のためにも、家族会等の結成も検討して欲しい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	事業所は海側にあり、反対側には法人施設と小学校があり、周辺には民家が数軒あるのみで、事業所と地域の交流は少ない。運営法人は地域である望海中学校区との交流を行い、事業所へも地域のボランティアや中学生・高校生の訪問等はある。利用者は、家族とともに、自宅やその出身地域とのつきあいを継続している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針の中から、利用者と職員がわかりやすい言葉で理念をつくった。職員は認知症高齢者への援助として、人として当たり前の生活が送れるように援助している。地域とのかかわりも利用者の家族とともに、自宅やその周辺地域とのつきあいを大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の一人ひとりの理念の捉えかたには多少の差はあるが、管理者は職員を信頼し、職員にも「普通の生活」を問いながら業務管理を行っている。また、利用者の入居時には、家族にも介護計画作成時等に理念を説明し、理解してもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は海側にあり、反対側には法人施設と小学校があり、地域には一般の民家が数軒だけある。このため、法人と地元は交流があるが、事業所との交流は少ない。利用者は出身の地域と個人的に交流している。事業所へは地域のボランティアや中学生、高校生の訪問がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年までの評価から「改善計画シート」を作成し、避難訓練、毎日の昼食調理の導入を具体的な改善として取り組んでいる。しかし、自己評価の作成が管理者のみとなり職員のかかわりが少なく、事業所全体の評価ができていない。		本年度の自己評価は、期間が短く職員の意見が出しにくかったが、評価を職員の協力のもと、事業所全体の課題として捉え、事業所のさらなる質の向上にむけて、運営者の理解の下に、より積極的な今後の活用を期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の開催ができています。運営推進会議のメンバーは地域の要職も兼ねている委員が多く、地域への情報発信もできています。また、ボランティア代表者も多いため、運営推進会議の中でボランティア交換会もできサービスの向上に活かされている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には参加していないが、昨年、市の担当者が事業所指定の更新で現場確認に訪れ、担当者把握とともに相談の機会ができて、現在は電話等でも連携できている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族は自分の親の事のみが知りたいと思い、利用者個人の様子を文書として、行事予定の報告とともに「お便り」として、月の初めに送付している。「事業所便り」的なものは送付していない。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時等に管理者が直接聞き取りを行うが、意見は聞き取れていない。開設から8年になるが、家族が事業所へ参加できる場面も少なく、家族同士の交流支援や意見、不満、苦情を表せる機会もほとんどなく、意見は運営に反映させていない。</p>		<p>グループホームは認知症高齢者の共同生活の場であり、家族の理解と協力があって、事業所での普通の生活が送られ、安心が得られる。事業所から、家族が交流したり、意見が出せる場や機会を提供する事を期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動がほとんどであり、認知症介護の経験を併設の老人保健施設で培った職員の異動を中心としているため、利用者へのダメージはほとんどないが、管理者は受け答えには配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人全体では研修は多いが、事業所としての年間の研修計画はない。また、職員のキャリアアップ等の参加日程等の配慮は支援してもらえるが、積極的な支援はない。		事業所は法人の研修だけでなく、職員ができるだけ外部での研修にも参加できる機会を提供すると同時に、これまでの研修時期等を確認した、事業所独自の年間研修を作成される事を期待したい。
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	明石市では現在9つのグループホームがあるが、交流会的な繋がりがなく情報交換もできていない。ただし、運営者は、市のサービス連絡会には定期的に参加しているが、そこでも会議録等の情報もグループホームにはない。		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会や現場交流の重要性を理解し、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者の入居時は、見学や1週間の体験入所を実施している。認知症の専門的ケアで生活が変わる事へ配慮し、安心感を感じるように対応しているため、ほとんどの利用者は慣らしの体験後にはそのまま入居されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は日々の利用者とのかかわりで、利用者の豊富な人生経験から、生活の中でのその時に応じた的確な教えを請う機会が多い。この事により人間関係に喜びを感じ、高齢者への尊敬の念が生じている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>事業所は一人ひとりの利用者の思いである、部屋に花を置きたい、詩吟を習っていた等の情報を職員が共有できるように、カンファレンスノートをつくっている。また、職員も利用者一人ひとりの気付きを記入している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前の在宅時の様子を聞き取り等で確認し、利用者がより良く暮らすために事業所の理念としての普通の生活送ってもらう為に、家族に計画の内容を説明し、理解を求め作成している。在宅では行っていなかった洗濯や洗濯物たたみ等も盛り込んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居時、作成計画は3ヶ月で見直し、その後も3ヶ月で見直しを行っている。事業所では常時の介護が可能であり、利用者の様子も確認しやすく早め早めの対応ができ、計画の評価やモニタリングを行っている。見直し時にはスタッフからの情報や記録を活かし、業務以外での気付きも取り入れている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>認知症高齢者介護の専門職員として、同一法人内での老人保健施設との職員との相互協力や、通所・短期入所事業所とグループホームが、利用者へのサービス提供の連携がスムーズに行えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の負担を考慮し、家族の同意や希望によって専門治療以外は同一法人の内科がかかりつけ医となって受診の支援を行っている。法人外部の専門医とのかかわりは家族を通して行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内に病院があり、連携も取れるが、事業所では利用者の入居時に「看取り介護についての同意書」を家族から受け取り、事業所、家族、職員で方針を共有している。また、変化のある時は必ず家族の意向を尊重し対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は一人ひとりの利用者を守る為に、会話の内容や言葉遣いに気をつけ、また職員にも指導している。何気ない話が、認知症のために内容が変わり、人を傷つけたりする事もあるため、利用者へも思いやりを持った指導を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の職員は、そのほとんどが同一法人併設の老人保健施設からの異動職員であり、グループホームにきて職員と利用者が膝を交えてゆっくりかかわりが持てる事に最初は戸惑うも、現在は利用者一人ひとりの思いを聞き、尊重できる業務に携われたことに喜びを感じ、希望に沿った支援ができています。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一昨年の外部評価から自己評価を続け、本年度から週に1回だった昼食の調理参加を毎日実施している。この事により、利用者の力を発揮できる機会が確保され、同時に食事の適温給食にも繋がった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向や体調を考慮し、午後1時から4時半の間に一人が週2回の入浴をしている。浴槽には、季節の菖蒲湯やゆず湯、泡の出る入浴剤等で工夫しているが、一番の楽しみはゆっくり入浴できる事であり、手・足浴も希望に応じて随時対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は自分でアピールする人と、何もしないうが、利用者が女性のための、全員が裁縫を好み、職員の支援で取り組んでいる。また、調理が得意な人は毎日職員とともにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の前がすぐに瀬戸内海であり、利用者は車椅子の人も含めて、雨天以外は全員が景色を楽しむ為に数10メートル離れたベンチまで散歩している。また、自分で歩ける人は複数回散歩に出掛ける人もある。事業所は家族にも外出の機会を作るよう依頼している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初からは、利用者の無断外出のため一時期施錠をしたこともあったが、現在は夜間19時から朝8時までは施錠しているが、目配りのできる日中は鍵はかけていない。また、外出時には職員が付き添うようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>昨年度の外部評価から、本年6月11日に夜間想定避難訓練を家族も参加して行った。ただし、事業所が法人施設の中にあり、地元地域とは離れているために、協力への働きかけは行っていない。今後は、消防署の要請でスプリンクラーの設置を秋に予定している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士、訪問看護師の指導を受け、利用者の食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、職員一人ひとりが気をつけて、利用者の状態や摂取状況を把握し支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物は法人施設の敷地の一区画として在るも、海辺に面した老人集会所的でこじんまりとして落ち着きがある。また、白を基調としていて全体が明るい。共用空間の特徴としては、恵まれた広いデイルームがあり、事業所内での多目的な催しや作業ができ活用できている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>開設から8年が経過し、居室も各利用者の好みや思いで飾られ、居心地もよい様子である。しかし、床材が施設的で軟らかさがなく、くつろげる場所がベッド上だけである。</p>		<p>事業所は過去の利用者の転倒事故や、度重なる汚染から居室でのマット等の使用は考えていないが、より家庭に近い高齢者の居室としての工夫を期待したい。</p>

 は、重点項目。